ヘルスケアFM研究部会

内なるFM、外へのFM

ヘルスケアFM研究部会 部会長 **上坂 修** こうさか おさむ
株式会社ヘルスケアFM研究所 代表取締役
認定ファシリティマネジャー

超高齢社会に立ち向かい、ヘルスケアFMは何をしなければならないのか?

変化する施設にこそ必要なFMであるが、社会環境が大きな変化を見せる中で、内外環境を共生させ最適化させる経営をFMはサポートできるのか?

病院FMを考える時、内なるFMとともに、超高齢社会には外へのFMが必要となる。それは地域・コミュニティのFMといえよう。施設医療から在宅医療へのうねりは、地域の健康リテラシーの進展を導き、病院は病を癒す場から治癒寛解後も、職業・健康保持へのネットワークサービスを提供する場へ変容していく。真の医療提供が必要な患者急性期の病院と、住宅までを含む健院が地域全体を見通すコミュニティ・マネジメントにより、健康者も不断に地域の医療ネットワークにつながり、ワーク・ケア・ライフから地域を選択する社会、「地域内で病院間が競う」から「地域間で病院群が競う」社会が到来して、ファシリティマネジャーを施設からコミュニティの束ね役へと成長進化することとなる。

2025年、団塊世代が後期高齢者となり国民の3分の1を占め、今後も社会をサポートする必要が高まる。東日本大震災以降、病院BCPを極める中でその原点となるLCM(ライフサイクルマネジメント)の重要性が公共FMでは特に高じている。

厚生労働省は2015年5月、国・自治体・関係団体等の病院に対して、インフラ長寿命化計画に基づく行動計画を2016年度、個別施設計画を2020年度までに策定するよう要請している。これら公的病院に対する公共施設等総合管理計画の策定の支援と共に、実際の運用への支援が直近の重要な課題となっている。

2015年の部会セミナーから見出された、これからの病院FMの姿と具体的な活動・支援をご紹介した。

第1回「地域の医療を構想する」
五十嵐徹也　茨城県病院局 病院事業管理者

第2回「地域医療への取組み」
持田和夫　石心会 埼玉地区統括事務部長

第3回「病院ファシリティマネジメントと私」
小室克夫　聖路加国際大学施設課 マネジャ

健康リテラシーの高いコミュニティを創る官民双方の模索として、茨城県病院局では多彩なチームメンバーを必須とする機能分化と集約の実現による健康管理と疾病管理の一貫した高次元の産業化が模索されている。一方、埼玉県石心会病院では、地域密着患者サービスに健康塾を取り入れ、疾病予防と早期発見治療に結び付くコミュニティ医療が模索されている。救急情報システムの窓口に救急救命士を据えた的確な受入体制を常備して、応需率98パーセントを実現し、入院生活用品を外部委託して独居高齢者の緊急入院をはじめとする家族負担と医療者負担の軽減を両立等のサービスと経営の改善への動向も見られる。

ファシリティマネジャーがファシリティだけのマネジメントに留まる時代は終わり、地域コミュニティにおける医療連携のマネジメントを支える時代が到来している。

病院FMの草分けである小室氏からは、「より良いサービスに向けての12条」をご紹介いただき、病院の産みの親となる良きパートナー選びとともに、育ての親となる施設管理者教育の必要性を実感させられた。